

- ・幼・保で大切にしていることや指導の方法がわかったので、自分の指導に生かしたい。
- ・教育の場は違って子どもを見る目は一緒に、共感できる意見がたくさんあった。

（3）課程編成・指導方法の工夫

○幼・保・小の連携は、子ども同士の交流や教職員の相互理解を図るための取組が中心となっており、課程編成の工夫にまではいたっていない場合が多い。そのため、幼児教育センターでは平成16年度の幼・保・小連携調査研究において、幼児期から児童期にかけての指導計画表等の資料を作成した。地域の実態に応じた課程編成の工夫に資するよう各幼稚園・保育所・小学校へ指導計画表を配布した。

【「指導計画表」（幼・保・小連携調査研究委員会報告書より）】

指導計画表 <指導計画案1> 【人のかかわり】			
時期	年 長 児 前期(4～9月頃) 後期(10～3月頃)	小 学 校 1 年 生 入学期(4～5月頃) (6～9月頃) (10～3月頃)	
発達 の姿	年長になったことを自覚し積極的に環境に働きかけるなど自ら心をおこして園生活を送る時期	自分の居場所を見つけながら、新しい環境に慣れていく時期	これまでの経験をもとに教師や新しい友達とのかかわりを広げていく時期
ねらい	一人への関心が高まり、友達と自分からかかわろうとする。	新しい生活の中で、教師と自分のつながりを軸に、友達とのかかわりをつくる。	教師や友達とのかかわりを広げていく。
経験 の さ ら い	・新入園児の世話をしたり行事に向けて活動したりして年長になった自覚を持つ。 ・友達の得意なことやよいところを認める。 ・自分の思いを伝えたり相手の思いに気が付いたりする中で、遊びを発展させようとする。	・異年齢の子と一緒に遊んだり、年長児を意識しながら、かかわりの中で、つながりを感じる。 ・お互いを認めたり、励ましたりしながら、友達と考えを出し合い遊びをつくっていく楽しさを味わう。 ・自分の意見を言い、相手の意見を受け入れる。 ・トラブルが起きて、相手の思いを受け入れながら、話し合いで解決していこうとする。	・新しい友達に親しみをもつ。 ・あいさつを交わすことの心地よさを感じる。 ・自分の思いを言葉で伝えようとする。 ・自分と違う、相手の思いに気が付く。 ・「ごめんさい。」「ありがとう。」など、自分の思いを素直に表現することの心地よさを味わう。 ・トラブルの場面では、教師の援助を得ながら解決の方法を考える。
内容	・仲間とのつながりを感じながら生活する楽しさを味わう。 ・集団生活のまきまりを理解し、約束を守って行動しようとする。 ・友達と一緒に工夫したり、試したりしながらルールを創って遊びを進めていく。	・友達の名前を覚え、学級生活(学習・運動・当番や係活動)の中で、自分の居場所を見つけようとする。 ・自分の意見が通らなかつたり、思い通りにならないことを経験する。 ・休み時間には、戸外で気の合う数人の友達と遊びを見つけ、楽しむ。	・自分の得意なことを友達に認められる喜びを味わう。 ・自分の思い通りにならない時、先生の援助を受け、かわり方を考えようとする。 ・異年齢の友達と遊んだり、縦割り班での協働作業をしたりしながら、共に生活することの楽しさを感じる。
発達 の姿	年長になったことを自覚し積極的に環境に働きかけるなど心をおこして園生活を送る時期	身近な自然環境とのかかわりを通して新しい環境に慣れていく時期	自分の知識や経験をもとに動植物とのかかわり、命に気が付いたりしていく時期
ねらい	身近な自然の変化に気付き、発見を楽しんだり自分で考えたことを伝えたりし、遊びを広げる。	校庭や通学路などの身近な動植物に興味をもち、進んで触れ合ったり、親しみをもったりする。	動物の世話をするを通して、成長の喜びを感じたり、自分と同じように生命を持っていることを感じ取る。
経験 の さ ら い	・小動物に親しみをもつて接し、興味・関心をもったり、成長を楽しみにしたりする。 ・畑などで種や野菜の世話をし、成長の喜びを感じる。 ・動植物に関する絵本や図鑑などに興味をもたせ、気が付いたことを友達や先生と伝えあう楽しさを味わう。 ・自然の変化について知った喜びやその過程を楽しむ。	・虫探しなどに夢中になったり、収穫の喜びを味わったりして、動物への興味を深める。 ・秋野菜の収穫後、来年度の年長のために遊びに使える植物を植える。話をしながら、来年のことを話題にしたり楽しみにしたりする。 ・虫や小動物の誕生や死を体験することによって生命の不思議さ、やさしさを感じ、いたわったり大切にしようとしたりする。	・先生と一緒に育てる植物を準備したり種を蒔いたりしながら、その成長を楽しみにする。 ・飼育舎の動物に触ったり、捕まえた生き物と遊んだりしながら、動きや仕草などに興味・関心をもつ。 ・自分の知っている方法で動植物とのかかわろうとする。
内容	・園内の身近な動植物や近くの公園の自然に親しみ、いたわったり、関心をもったりする。 ・園庭の木や草花などを見たりしながら自分たちの遊びに取り入れていくこととする。 ・園庭や公園の生き物の世話をしている人がいることに気付く。	・校庭の花や生き物のかかわりなどに触れ、新しい学校への親しみをもつ。 ・学校の周りや、通学路の動植物に関心をもつ。 ・通学路の自然に触れ、どこにどんな生き物がいるかなどに気が付き、それを友達と伝え合う。	・自分たちで、育ててみたい生き物について先生と一緒に話し合い、自分なりの願いをもって、育てようとする。 ・生き物によって生活の仕方や食べ物などが違うことを調べたり、自分の知っていることを伝えたりしながら生き物の生活のしやすさを考え飼育する。 ・困ったことがあった時にも、互いに知恵を出し合いながら継続して動植物の世話をすることで、動植物の生命に気付く。 ・季節による植物の変化に気付き、五感を通して違いを味わう。 ・葉や実を使って遊んだり、造形活動をしたりしながら、表現する楽しさを味わう。 ・雪や氷などを使って遊んだり、他の素材と関連づけて活動したりしながら、疑問を追求し解決していく楽しさを味わう。